

第 4 章

「総合的な学習の時間」

金子 真理子

2002年度から全面実施に移された現行の学習指導要領では、各学校が「地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童生徒の興味関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うもの」として、小3生以上と中学校の各学年に「総合的な学習の時間」が創設された。なお、「総合的な学習の時間」の標準時数は、以下の通りである。

小学校：小3生＝105、小4生＝105、小5生＝110、小6生＝110

中学校：中1生＝70～100、中2生＝70～105、中3生＝70～130

第3章で各学年の年間総授業時数についてふれたが、完全学校週5日制の実施に伴い、従前より各学年とも年間70時間程度削減された。このような年間総授業時数の削減に加え、「総合的な学習の時間」が創設されたことにより、各教科の授業時数や特別活動の時数は大幅に削減されることになった。このような現状をふまえれば、年間総授業時数の削減と同時にあえて導入された「総合的な学習の時間」が、実際の学校現場でどのように活用され、いかなる効果をあげているのかを分析し、診断する責務があるだろう。この試みは、現在進行中の教育改革の目玉の1つであった「総合的な学習の時間」の実施過程を明らかにすると同時に、その課題と成否を検討することに他ならない。

本章では、まず、学習指導要領上に掲げられた「総合的な学習の時間」のねらいを簡単に示す。次に、02年調査から、実際の学校現場では、この時間をいかに活用し、どのような成果をあげているのかを検討する。

第1節

「総合的な学習の時間」の内容

小・中学校ともに「テーマ学習」が「総合的な学習の時間」の1つの柱になっている。そのうえで、小学校では教科の学習内容を深める活動を、中学校では進路学習や学校行事の一環としての活動などを行う傾向が強い。

1) 「総合的な学習の時間」導入のねらい —学習指導要領から

「総合的な学習の時間」については、学習指導要領の総則において、ねらいや学習活動、配慮事項等の取り扱いが、次のように示されている。

(ア) ねらい：(1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、(2) 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

(イ) 学習活動：例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行う。

(ウ) 配慮事項：①体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること、②グループ学習などの多様な学習形態、全教師が一体となった指導体制などについて工夫すること、③外国語会話等を行うときは、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習とすること(③は小学校のみ記載)。

すなわち、「総合的な学習の時間」導入の教育政策上のねらいは、児童・生徒の主体的な学習意欲を高め、彼らに「学ぶ力」や「学び方」を身につけさせることである。次に、02年調査の結果から、「総合的な学習の時間」

が各学校でどのように活用され、いかなる成果をあげているかを、具体的にみていこう。

本調査サンプルでは、小学校教師の64.3%、中学校教師の85.5%が「総合的な学習の時間」を担当している。彼らに、「総合的な学習の時間」の実施内容、すすめ方、時数についての考えや、「総合的な学習の時間」導入の結果についてたずねた結果を示す。

2) 「総合的な学習の時間」の内容

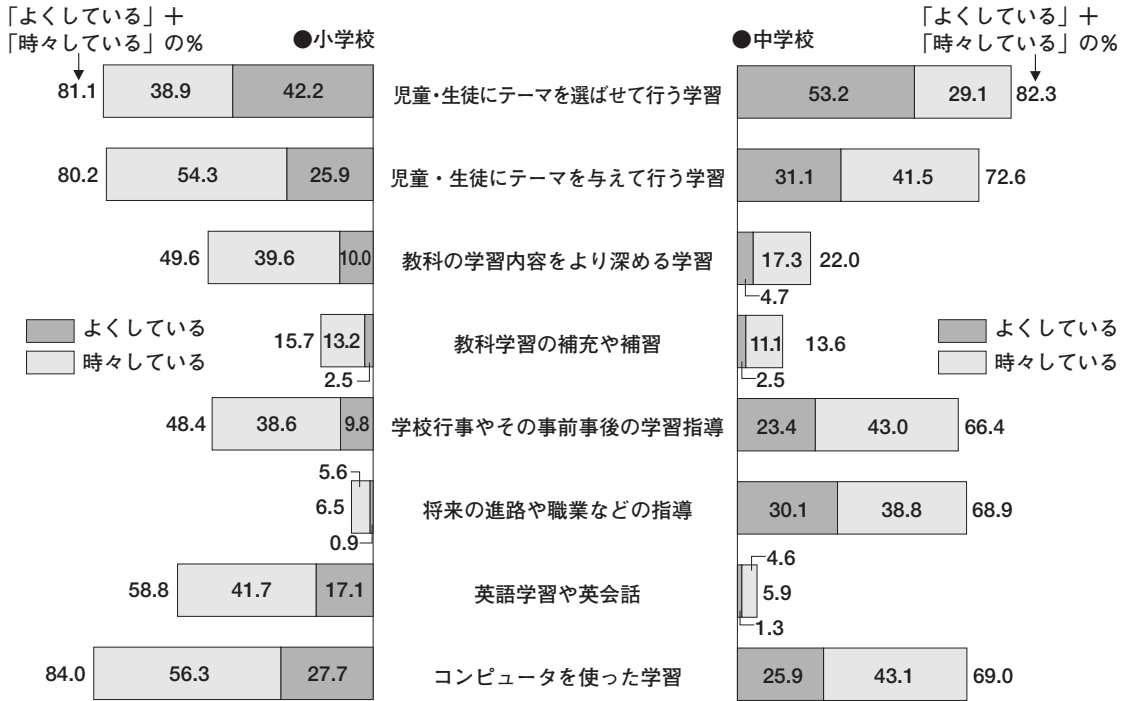
まず、「総合的な学習の時間」の内容についてであるが、図4-1に示されているように、小・中学校ともに「テーマ学習」が1つの柱となっていることがわかる。

加えて、小学校では、「コンピュータを使った学習」84.0%、「英語学習や英会話」58.8%も多い。また、半数近い小学校教師が「教科の学習内容をより深める学習」にも取り組んでいる。学級担任制の小学校の場合、「総合的な学習の時間」は、学級内の様々な教科学習とも関連づけられて活用される傾向がある。

他方、中学校では、「コンピュータを使った学習」「将来の進路や職業などの指導」「学校行事やその事前事後の学習指導」がそれぞれ7割弱と多いのに対し、「教科の学習内容をより深める学習」は2割強であった。

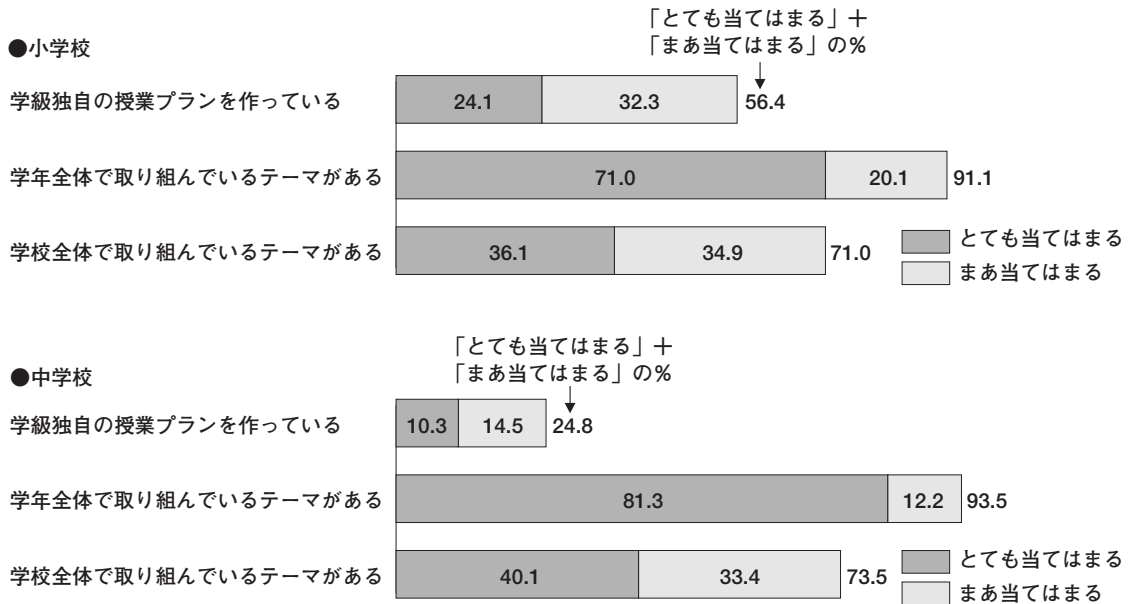
教科担任制の中学校では、「総合的な学習の時間」には学年全体で取り組む割合が高く(図4-2)、各教科の学習内容を深めるというよりは、より共通の課題—進路学習や学校行事の一環として活用される傾向がある。

■図4-1 「総合的な学習の時間」で実施していること(小・中学校教師)



注) サンプルは「総合的な学習の時間」を担当していると回答した教師。小学校2328人、中学校2897人。

■図4-2 「総合的な学習の時間」のすすめ方(小・中学校教師)



注) サンプルは「総合的な学習の時間」を担当していると回答した教師。小学校2328人、中学校2897人。

第2節

年間の授業時数

「総合的な学習の時間」の年間授業時数について、小学校では8割強が「標準時数どおり」、中学校では9割が標準時数の下限から上限の間に設定している。こうした状況に対して、管理職は「時数は現状を維持したほうがよい」という考えが強いが、一般教師は「時数を削減したほうがよい」「なくしてもよい」という意見が強い。

1) 年間の授業時数の設定

中学校における「総合的な学習の時間」の年間授業時数の設定(図4-3)は、「標準時数の下限と同じ」(70時間)に設定する学校が、中1生では57.4%、中2生では39.0%、中3生では32.5%となっている。中1生で下限に設定する学校が多いことがわかる。

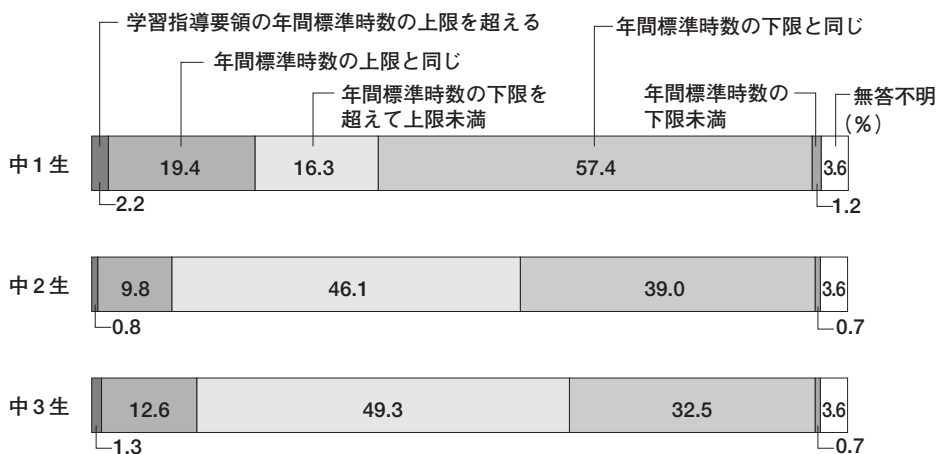
他方、小学校における年間の時数設定は、「標準時数どおり」がおおむね8割強であった(p.47 図3-4 参照)。

2) 「総合的な学習の時間」の標準時数に対する意見

次に、「総合的な学習の時間」の年間標準時数についての意見(図4-4)をたずねたところ、管理職の場合、小学校で6割、中学校で5割強が「時数は現状を維持したほうがよい」と回答した。しかし、「時数を削減したほうがよい」と回答した管理職もそれぞれ3~4割に達する。

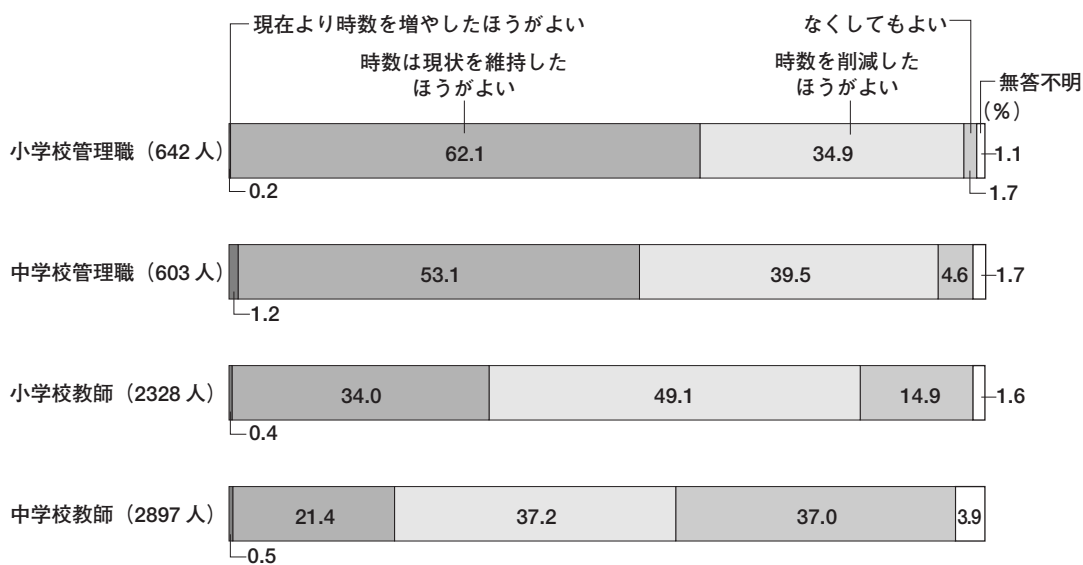
一般教師においては、小学校では「時数は現状を維持したほうがよい」3割強、「時数を削減したほうがよい」約5割、中学校では「時数は現状を維持したほうがよい」2割強、「時数を削減したほうがよい」「なくしてもよい」はそれぞれ4割弱という回答であった。

■図4-3 「総合的な学習の時間」の年間授業時数の設定状況(中学校)



注) サンプルは中学校603校。

■図4-4 「総合的な学習の時間」の標準時数についての意見(小・中学校管理職、教師)



注) 小学校教師、中学校教師は、「総合的な学習の時間」を担当していると回答した者。

第3節

導入の結果

「総合的な学習の時間」を導入した結果として、授業プランの創意工夫や教師間の情報交換の機会が増えたといったメリットを感じている教師が多い。しかし、その一方で、負担増や教師間の負担の差を感じたり、テーマ設定や具体的な実施のしかたに悩む教師も多いことがわかる。そうした傾向は、中学校の教師に顕著である。

最後に、「総合的な学習の時間」を導入した結果(図4-5、図4-6)についてみてみよう。

小・中学校教師ともに、「一般教員が創意工夫して授業プランを組み立てる機会が増えた」「教師間の情報交換や連携が強化された」などのメリットを感じていることがうかがえる。

次に、子どもの変容についての手ごたえはどうだろうか。「児童・生徒の学習意欲が高まった」という手ごたえは、小学校教師の7割強が感じているが、中学校教師は4割強にとどまっている。また、「児童・生徒は学ぶ力や学び方を身につけた」についても、小学校教師は7割弱が感じているが、中学校教師は5割にとどまる。

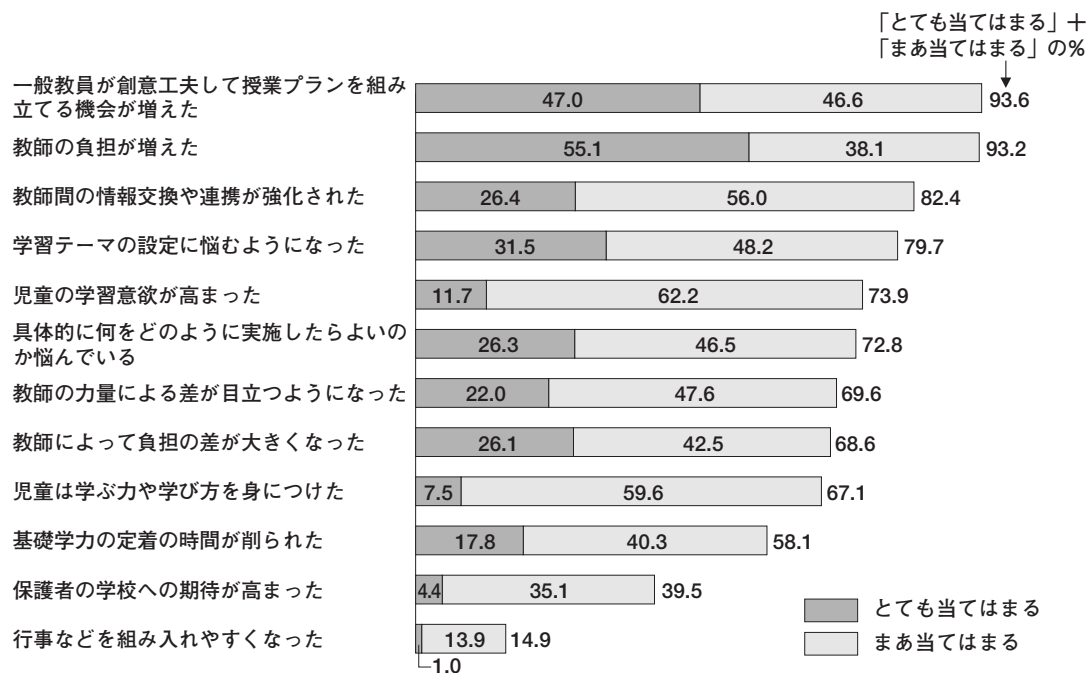
他方、「教師の負担が増えた」「学習テーマの設定に悩むようになった」「教師によって負担の差が大きくなった」「具体的に何をどのように実施したらよいのか悩んでいる」と

いった回答は、小・中学校教師ともに多く、実践を深めるうえでの負担感や悩みが現れている。特に中学校教師にその傾向が顕著であり、さらに「基礎学力の定着の時間が削られた」という意識も7割近くに達する。

「総合的な学習の時間」導入の教育政策上のねらいは、先述したように、児童・生徒の主体的な学習意欲を高め、「学ぶ力」や「学び方」を身につけさせることであった。今後、「総合的な学習の時間」導入のメリットを生かし、当初の政策的意図を果たすためには、教員に対する格段の条件整備や支援が求められている。

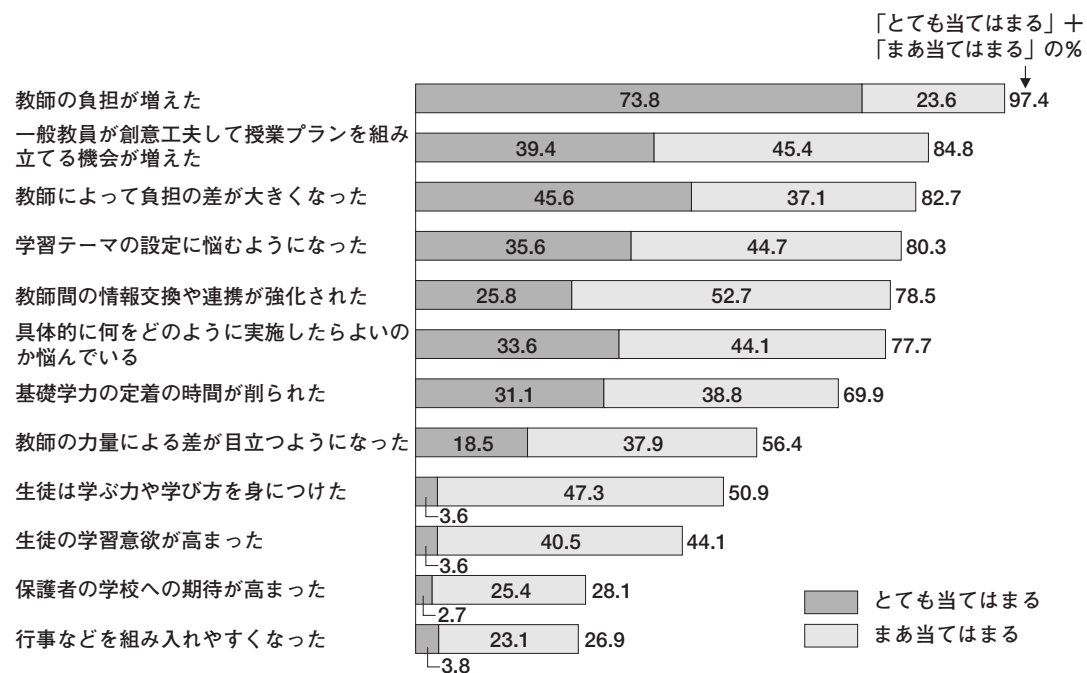
最後に、このような「総合的な学習の時間」が、各教科や特別活動の時間の削減を伴いつつ導入されたことを考えれば、「総合的な学習の時間」で養われる「能力」と、教科学習などで養われる「能力」との関係性についても、さらなる検討と分析を加えていく必要があるだろう。

■図4-5 「総合的な学習の時間」導入の結果(小学校教師)



注) サンプルは「総合的な学習の時間」を担当していると回答した小学校教師2328人。

■図4-6 「総合的な学習の時間」導入の結果(中学校教師)



注) サンプルは「総合的な学習の時間」を担当していると回答した中学校教師2897人。